

高等小學書方手本

第一學年用上甲種

K140.72
2.11
1上

K140.72

2.11

1上



高等小學書方手本

第一學年用上甲種

文 部 省

豐華原瑞穗國寶。

高甲上

高甲上

祚之隆。天壤無窮。

秋の日は山の端近し暮れぬ間に
母に見えなん歩め我が駒。

埋火のあたりのどかにはらからの

まゝとるせし夜ぞ戀しかりける。

朋友仇敵利害談

五

高甲上

笑歡樂富貴榮華

六

高甲上

故郷の墓はしきは祖先墳墓の地にして我が幼時
嬉戯せし家なればなり。祖先幾代此家に生活し
永く此家に眠れるを思へば無心の山河も自ら

情あり。我が嬉戯せし幼時の樂しき記憶をおもひ
起せば木石亦知友の感なくんばあらず。況や父母
妻子兄弟姉妹親族故舊の我を待つあるに於てをや。

御申越の儀承知致候早速先才へ伺合の上

九

高野上

當方より何分のは挨拶申上ぐぐ候不

十

高野上

智と徳とは兩つながら併行せざるべからず。才學ありとも心下劣にして行賤しければ人の尊敬を

十一

高甲五

受くること能はず。いかでか世を指導するを得んや。學を修むるものは亦必ず其の徳を磨くべし。

十二

高甲上

島津。毛利。長曾。我。

十三

高甲上

部。加藤。藤堂。京極。

十四

高甲上

矛。盾。槍。薙。刀。甲。冑。

十五

高甲上

鏡。劍。空。中。飛。行。機。

十六

高甲上

對馬津輕宗谷舞

廿

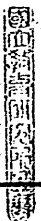
萬甲上

鶴敦賀浦潮斯德

十八

萬甲上

英吉利獨逸佛蘭



西露西亞伊太利。

雲路おかぬ方もありけり夕立の空
よりひろき武蔵野の原。我が
いはは松原づき海近く富士の

高根を軒端にぞ見る。急がずば
ぬれがらましを旅人のあと
より霽る野路の村雨。

半紙半帖。扇子一對。屏風二雙。掛物
三幅。木杯一組。金子壹封。證書貳

十三

高平正

通株券參枚。手拭一筋。足袋二足。
吸物椀二十人前。臺所道具一式。

十四

高平正

資本流動。固定。生。

二五

高甲上

產。營。利。規。模。擴。張。

二六

高甲上

野卑。溫雅。寡言。多。

二十七

高甲上

辯沈默。應答抑揚。

二十八

高甲上

巧言令色鮮し仁。君子は言に訥に
して行に敏ならんことを欲す。己の

欲せざる所人に施す勿れ。河海は細
流を擇ばず故に能く其の大を成す。

病菌傳染隔離法

三十一

高甲工

療消毒預防種痘

三十二

高甲工

人

秦築長城比鐵牢。
蕃戎不敢過臨洮。

三十三

高甲上

烏知萬里連雲勢。
不及堯階三尺高。

三十四

高甲上

唯々到着致候凡そ一週間位滞在
の旨には座候いづれ其の中 泰堂

例の件 委細は話申上度と存
居候取敢へずは報まで事と

廉潔克己。忍耐。道。

讓。從。順。嚴。格。懲。戒。

Y 14072-2.11-1

大大大大
正正正正
三三三三
年年年年
十十十十
二二二二
月月月月

十廿五廿
十四日
日日日日
翻翻翻翻
刻刻刻刻
發發發發
行行行行



大正三年十二月十六日
文部省檢査濟

發賣所

東京市日本橋區新地
右衛門町十六番地株式會社

印刷所
國定教科書共同販賣所

大阪書籍株式會社工場

大阪市南區難波岸原町千八百八十八番地ノ九

印刷發行兼
代表者 三木佐助

書者 大阪市南區難波岸原町千八百八十八番地ノ九

發行所 大阪書籍株式會社

著者 日高秩父

書者 日高秩父

發行所 大阪書籍株式會社

著者 日高秩父

高等小學書
手本第一學年用上甲種

定價金參錢

